

次期枠組みに向けたCDM改革

温暖化対策CDM/JI事業調査シンポジウム2009
東京会場

2009年9月10日

財団法人 地球環境戦略研究機関
気候変動領域 市場メカニズムプロジェクト
研究員 弥富圭介

CDMの国際交渉における位置付け

UNFCCC(気候変動枠組条約)

京都議定書

共同実施(議定書6条)

CDM(議定書12条)

国際排出量取引(議定書17条)

条約の下での長期的協力の行動のための特別作業部会(AWG-LCA)

- UNFCCC締約国が参加
- 交渉テキスト(各国提案まとめ)
- 緩和(セクターアプローチ、炭素市場等)

京都議定書の下での附属書I国の更なる約束に関する特別作業部会(AWG-KP)

- 京都議定書締約国が参加
- (日本、EU、カナダ、ロシア等)
- 附属書I国の数値目標
- 市場メカニズム(CDM、JI等)
- 吸収源・ガス

市場メカニズム(CDM)に関する提案内容

新規対象プロジェクト

- ◆ 炭素回収貯留 (CCS)
- ◆ 原子力発電
- ◆ 森林(持続可能な植林経営など)
- ◆ 途上国における森林減少・劣化に由来する排出の削減 (REDD)

ルールの変更

- ◆ 標準・複数ベースラインを設定
- ◆ ポジティブ・ネガティブリストによる追加性基準の明確化
- ◆ コベネフィット型プロジェクトの促進
- ◆ クレジットの割増・割引率を設定
- ◆ その他

新たな市場メカニズム

- ◆ セクター・クレジットメカニズム(SCM)
- ◆ 途上国の緩和行動(NAMA)クレジット/トレーディング・メカニズム

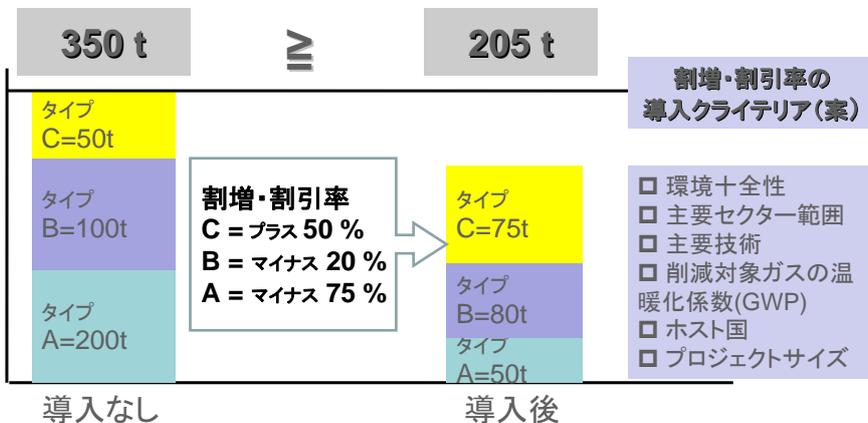
新規対象、ルール変更については、COPの決定文書案を基にオプションの整理及び絞り込みが行なわれているところである。

3

クレジットの割増・割引率とは

- ◆ クレジット発生量の調整による地理的不均衡の解消措置
- ◆ 実質削減量又は吸収量以上のクレジット量は発行されない
- ◆ 議論の争点は、公平性、割増・割引率の値、クライテリアなど

約束期間中のクレジット発行量 (t-CO₂)



FCCC/KP/AWG/2009/10/Add.3を基に作成

セクター・クレジット(トレーディング)メカニズム

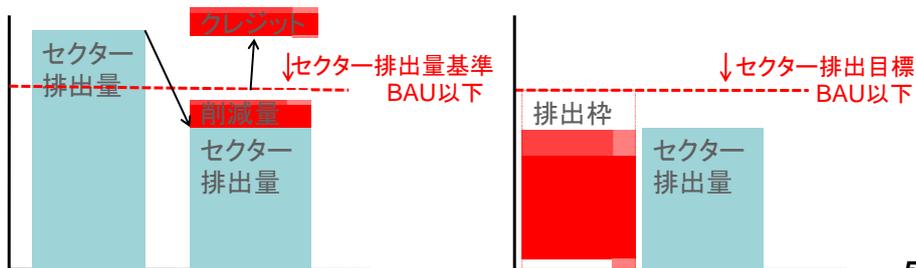
- ◆ セクター(部門)を一つの単位とした排出削減行動
- ◆ 主要途上国における実施を前提
- ◆ セクター・クレジット・メカニズム(SCM)とセクター・トレーディング・メカニズム(STM)が提案されている。

SCM: セクターにおける排出削減

- 排出削減後にクレジット発行
- 削減をしなくてもペナルティはない

STM: セクターにおける排出量取引

- 事前に排出枠を配分
- セクター排出量 < セクター排出枠



FCCC/KP/AWG/2009/10/Add.2を基に作成

5

CDMとSCMの主な違い

	CDM	SCM
参加者	民間	政府+民間
削減実施対象	1~複数団体	セクター全体
クレジット発生基準	BAU(ベースライン)可	BAU不可
追加性	別途説明必要	目標値設定に含まれる
監督機関	CDM理事会	決まっていない

SCMに関する具体的な内容及び手続きについてはまだ何も決まっていない。

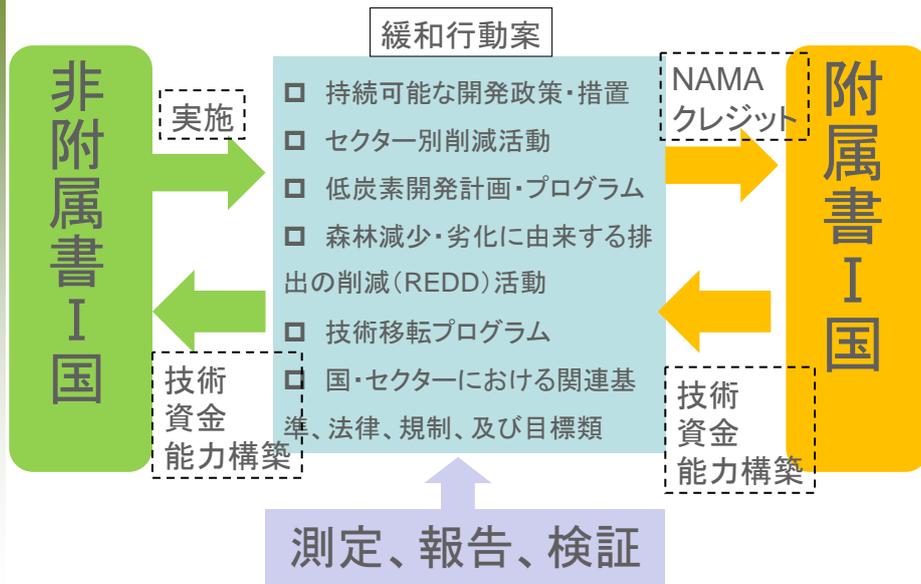
6

市場メカニズムと途上国の緩和行動(NAMA)

- ◆ Nationally appropriate mitigation actions by developing country Partiesの略
- ◆ 現在、市場メカニズムとの関連では、NAMAクレジットとNAMAクレジット・トレーディングメカニズムが提案されている。
- ◆ いずれのメカニズムでも、持続可能な開発の促進と温室効果ガス削減へ貢献すること、市場を活用した費用効果的な削減、を目的としている。
- ◆ 排出削減行動は「測定可能、報告可能、検証可能」であるとされているが、これはCDMのアプローチと同様。
- ◆ 国際交渉において、具体的な議論はまだ進んでいない。

7

NAMAクレジット・トレーディングのイメージ案



FCCC/KP/AWG/2009/10/Add.2を基に作成 図はIGES研究員による解釈イメージ 8

まとめ：次期枠組みにおけるCDM

- ◆ 2013年以降もCDMは継続される。
- ◆ 現在は既存のCDMを改善していくための交渉が続けられているが、交渉のペースは遅い。
- ◆ CDM以外の市場メカニズム（SCM、STM、NAMAクレジット・トレーディング）も提案されているが、実際に実施されるまでにはまだ多くの時間と交渉が必要。（CDMもルールの制定から実際のクレジット発行までに5年以上かかった）
- ◆ したがって、CDMその他の市場メカニズムの経験を活用することが重要となる。

9

IGES出版物のご紹介

IGES 将来の京都メカニズムに関する 国際交渉におけるオプション案

The image shows a screenshot of the IGES report table of contents. The title is 'IGES 将来の京都メカニズムに関する国際交渉におけるオプション案'. The table lists various sections such as '1. 概要', '2. 京都メカニズムの現状', '3. 交渉の経緯', '4. オプション案', and '5. アジアの状況'. Each section is followed by a page number.

- ✓ AWG-KP 5.2 (2008年7月)以降に国際交渉されている2013年以降の京都メカニズム（CDM、JI、国際排出量取引）のオプション案をまとめたもの
- ✓ 交渉内容は随時更新中
- ✓ データはエクセル形式

ダウンロード <http://www.iges.or.jp/jp/cdm/report.html>

10